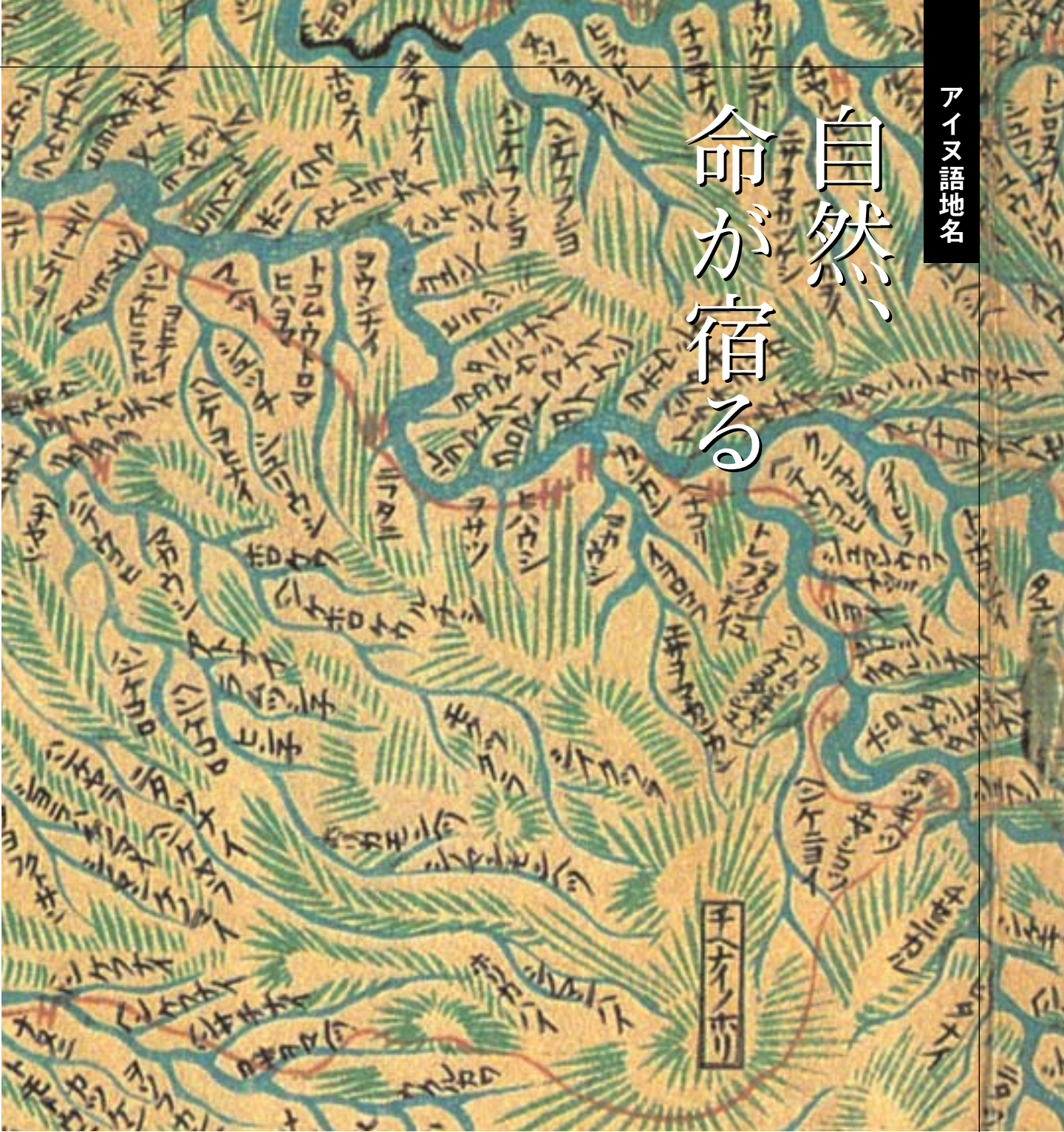


自然、命が宿る



「山川地理取調圖六」(松浦竹四郎著)より—現在の平取町付近—

私と遺産

2、3割、原形とどめず

旭川市立志和中校長の尾崎功さん(58)は8月に「アイヌ語地名地誌—上川盆地の川と山」を自费出版した。

「このへんはシカやクマが通ったんだとか、イトウがいたんだとか、ギョウジヤニンニクが取れたんだとか」。アイヌ語は研究すればするほど、この地域がかつてどんなところだったのか連想できるんですよ」。尾崎さんはアイヌ語研究の魅力をこう語る。

尾崎さんが研究に取り組んだのは名寄市の中多寄小学校長だった5年前、松浦武四郎セミナーで研究発表したのがきっかけ。その後、アイヌ語地名研究会に入会し、天塩川流域のアイヌ語地名の本2冊を出版した。

今回は上川地方のアイヌ語の集大成。石狩川、美瑛川、忠別川、愛別川など9河川の流域を調べ上げた。2、3割はアイヌ語地名の原形をとどめていないといい、尾崎さんは「川はコンクリートの護岸になり、東2号川とか面白みのない名前がついていたりする。地名だけは残したい」と力を込める。

「アイヌ語地名地誌」は1200円。旭川市の富貴堂書店で扱っている。